

教職支援室便り (6月号)

令和2年 6月 12日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教員採用試験 (第一次試験) 近づく！

いよいよ教員採用試験 (第一次試験) が近づいてきました。すでに、全国各自治体の実施要項等が公表され、6月下旬から7月下旬にかけて、第一次試験が行われます。九州各縣市では、7月11日 (土)、12日 (日) に実施される予定です。コロナウィルス対策の影響も心配されますが、受験者の皆さんには、全力で取り組んでほしいと思います。

本学の学生が受験する自治体、校種、採用予定数、一次試験の内容については、下の表の通りですが、やはり、中学校英語、高等学校英語の採用倍率は、厳しい状況が予想されます。

自治体	校種	採用予定数	一次試験の内容
宮崎県	小学校	205名程度	筆記試験「教職教養、教科専門」 実技試験「各校種英語受験者・英語リスニング」
	小学校英語	5名程度	
	中学校英語	10名程度	
	高等学校英語	2名程度	
鹿児島県	小学校	270名程度	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」
	中学校英語	20名程度	
佐賀県	小学校	190名程度	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」
熊本県	小学校	178名程度	筆記試験「教職教養、教科専門」
	中学校英語	11名程度	
長崎県	中学校英語	14名程度	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」
広島県	中学校英語	中学校教諭 190名程度	筆記試験「教職教養、教科専門」 グループワーク
東京都	中学校英語	中学校・高等学校教諭 1200名程度	筆記試験「教職教養、教科専門」 論文試験
香川県	中学校英語	中学校教諭 85名程度	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」 面接試験
愛媛県	中学校英語	10名程度	筆記試験「教職教養、教科専門」 面接試験
福岡市	小学校	285名程度	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」

第一次試験は、筆記試験を中心に行われますが、その内容には、「教職教養」、「一般教養」、「教科専門」などの分野があります。また、自治体によっては、面接試験、論文試験等を実施するところもあります。

次頁では、それらについての概要を説明したいと思います。

教職教養

教職教養の試験では、教職に対する基礎知識を問われます。具体的には、教育法規、教育の方法、教育課程、学習指導要領、教育史、教育心理学、道徳教育、人権教育、中央教育審議会の答申、文部科学省等の通知文・報告書などです。

一般教養

一般教養の試験では、国語、数学（算数）、理科、社会、英語などから出題されます。また芸術、体育に関する問題、情報処理に関する問題、受験する自治体に関する問題など、出題範囲は多岐に及びます。したがって幅広い見識が必要になります。

教科専門

教員の適性の一つとして、「専門性」が重視されています。筆記試験の中でも専門科目の配点はウエートが高く、専門で高得点をマークすることが、合格ラインを突破する基準となります。専門科目は、その科目の知識と学習指導要領、指導法を問う問題が出されます。教える教科の知識、授業で正確に指導できる力などが問われます。

論文試験

採用試験における論文は、大学入試の論文などと同じように考えることはできません。採用試験の論文は、論文的な論理性に加えて、「熱意」や「思い」を込めることも求められるからです。留意点としては、①序論・本論・結論の3段構成で書く、②「思い」だけではなく具体策を書く、③評論家ではなく教員の立場で書く、④「書く面接」と意識し使命感や情熱を込める、などがあります。論文のテーマとしては、教育問題に関して幅広く出題されます。

面接試験

面接試験は、人物評価のために、すべての自治体で実施されます。中には、一次試験から行う自治体もあります。宮崎公立大学では、毎年度、あらゆる角度から面接試験演習に取り組んでいます。今回は、面接試問例の一部を紹介します。

- | | | | |
|----------------|----------------------|---------------|---------------|
| ○一次試験の感想 | ○本県受験の理由 | ○教員志望の理由 | ○他自治体の受験状況 |
| ○赴任先の希望 | ○本県の魅力 | ○本県の教育施策 | ○本県の求める教員像 |
| ○教育とは | ○教育的愛情とは | ○使命感とは | ○学び続ける教員とは |
| ○豊かな心とは | ○教員になっての夢 | ○好きな言葉 | ○「生きる力」を育てること |
| ○大切にしている物 | ○尊敬している人 | ○最近読んだ教育書 | ○長所と短所 |
| ○趣味 | ○決断する力 | ○得意なこと | ○不得意なこと |
| ○友達からの評価 | ○責任感とは | ○部活動指導 | ○自分に足りない力 |
| ○保護者対応 | ○保護者の思いとは | ○「怒る」と「叱る」の違い | |
| ○地域の人材の活用 | ○部活動で得たもの | ○ボランティア活動 | ○大学のよさと専攻内容 |
| ○不祥事に対する認識 | ○体罰に関すること | ○コンプライアンス | ○懲戒に関すること |
| ○現場体験の不足 | ○教育実習の思い出 | ○通知表の認識 | ○教育実習で困ったこと |
| ○教員としてのやりがい | ○教員が特に大切にしなければならないこと | | |
| ○失敗してプラスになったこと | ○携帯電話の指導のポイント | ○休日の過ごし方のポイント | |
| ○時間の使い方のポイント | ○思いやりの心を育てること | ○どんな子どもを育てたいか | |
| ○モンスターペアレント | ○ほめ方、叱り方のバランス | ○最近注目しているニュース | |

本年度の教育実習について

教員免許取得をめざす学生の皆さんは、例年5月から6月にかけて、教育実習に取り組みます。しかし、本年度の教育実習は、コロナウィルス対策のために、多くは9月以降に変更されました。その中で、3名の学生の方が、前期の教育実習に取り組みました。



この教育実習の目的は、「教員となるために必要な実践上、及び研究上の専門的な知識と技術を習得すること。」にあります。やはり教員としての資質、学校現場の問題や課題、生徒理解の難しさや良さ、授業の難しさや成就感、教員志望の更なる情熱などを、体感することが重要であると考えます。教育実習最終日に、生徒から、「先生、また学校に来てください。」などと言われる喜びを、体感してほしいと願います。教育実習は、学生の皆さんにとって、貴重な体験になることでしょう。

道徳の教科化に思う！（シリーズその37）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について掲載しています。今回は、その37として「読み物教材に真正面から向き合う道徳授業を考える」についての資料です。

◇1 読み物教材の活用に係る問題・課題

1 読み物教材への理解

- ・道徳授業において読み物教材を活用してきたことは、道徳授業の充実だけではなく、教師力向上にも大きく影響を与えてきた。（◇2に関連）
- ・道徳授業における読み物教材の研究は、国語科（文学的文章）等の授業力、読解力の向上など、教師の指導力向上にもつながっている。

2 教科用図書の趣旨の理解

- ・道徳科の教科用図書には、優れた読み物教材が多く掲載されている。その中には、不朽の名作と言われるものも少なくない。
- ・教科用図書の趣旨を理解し、読み物教材を有効に活用するためには、道徳授業に係る教師の指導力が求められる。

3 読み物教材の活用に係る問題・課題

- ・読み物教材を、問題提供のために活用する事例がある。読み物教材の活用を、再考する必要がある。
- ・モラルジレンマ学習の効果的な活用が課題である。これまでの日本の道徳授業の成果を見直すときである。
- ・読み物教材に見られる（感じられる）日本人のよさが、効果的に生かされない道徳授業が増えている。
- ・読み物教材の指導構想が明確でなく、「ねらい」と学習指導過程の整合性に欠ける道徳授業が見られる。

◇2 読み物教材が活用されてきた意義（「道徳の教科化に思う」2018 曾我）より

※「読み物資料」は、「読み物教材」に読み替える。

昭和33年に「道徳の時間」が特設されて以来、読み物資料が多く活用されてきました。現在も、ほとんどの学校で読み物資料が活用されています。この項では、道徳授業に読み物資料が活用されてきた意義について述べたいと思います。

私は、道徳授業は、児童生徒だけではなく、教師も一人の学習者として人間性を高める時間、教師力を育てる大切な時間であると考えます。多くの読み物資料の中には、自己実現していく登場人物の心情などが描かれています。授業者としての教師は、登場人物の言動の裏にある様々な気持ちや考えに寄り添うことを通して、その苦悩や勇気、喜び等を共感的に体感し授業に臨むことが重要です。読み物資料の分析は、そのために行うものです。このような地道な取組をひとつひとつ積み重ね、教師自身も登場人物の生き方を感じ取ることで、児童生徒の心に届く語りかけや、つぶやきを拾い上げる技が磨かれていくとともに、人としてのよりよい生き方を学び、教師力を向上させていくのだと思います。そのような教師は、児童生徒に、あるときは冷静な知的判断の基に、あるときは心情的に道徳的価値を考えさせて道徳的実践の身構えをもたせることができるなど、道徳性を徐々に着実に養っていくと考えます。

それだけに、特にこれから道徳の授業力等を身に付けたいと考えられている先生方には、次のような助言をしたいと思えます。現在、即授業に役に立つという書籍もあり、参考にされる方もいるとは思いますが、道徳授業においては、「このようにすれば、すぐに授業がうまくいくようになる。」という方法論的な考え方だけでは、真の授業力は身に付かないということです。読み物資料の登場人物の生き方と向き合いながら、地道に授業実践を重ねていくことの重要性を強調したいと思えます。授業力向上さらには、教師力向上を求めることは奥が深く、広く、限りのないことですが、そのような教師になりたいと願い、努力する人であってほしいと思えます。私は、今でも子どもたちと授業をする夢を見ますが、心からの言葉で勝負できない自分に、腹を立てることがあります。

なお、「小学校・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」においては、教師も一人の学習者であることが、次のように述べられています。

○ 第3章第1節1(1)

学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」の「第2内容」は、教師と児童（生徒）が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題である。

○ 第4章第3節3(1)

(略) 教師自らが児童（生徒）と共に自らの道徳性を養い、よりよく生きようという姿勢を大切にし、日々の授業づくりや愛情をもった児童（生徒）への指導をすることが重要となる。

○ 第4章第4節2(2)ウ

道徳科の学習は、「人生いかに生きるべきか」という生き方の問いを考えると問い換えることができ、道徳科の指導においては、児童（生徒）のよりよく生きようとする願いに応えるために、児童（生徒）と教師が共に考え、共に探求していくことが前提となる。